



続 謙澄を巡る人々

題字 棚田看山

その7

かれこれ二十五年程前、私が豊津高校（現、育徳館高校）に勤務中の事である。東京の古書店の目録の中に謙澄の色紙を見つけた。相前後して別の書店の目録で謙澄夫人（生子）の色紙を目にした。すぐにこの二枚の色紙の購入申込みを行ない、幸いにどちらも購入できた。

送られて来た二枚の色紙を並べてみると同一の寿賀帖に貼り込まれていたもののようだ。二枚の切れ目と切れ目を合わせてみればなんとぴったりと合うではないか。この二枚は元々同じ寿賀帖に並んで貼り込まれていたものだ。謙

澄夫妻の色紙が仲良く貼り込まれていたものか切断され、別々に売りに出されたものだった。そしてどち



妻 末松生子 ～夫・謙澄と描いた夫婦色紙～

らも私が購入するに至ったのである。

この事を行橋市教育委員会に伝えると、早速白石教育長（当時）が豊津高校に来られ、同窓会室で応対した。教育長から「是非、御夫妻の色紙を市に譲って欲しい。」とのこと。私は喜んで了解の意を伝えた。

寿賀帖の色紙がいつどの様な経緯で切り離され、流れていったかは定かではない。しかし、再び一緒になつて今、市教育委員会の所蔵として保管されていることは誠に喜ばしいことである。二度と離れ離れになることのないように願わずにはいられない。

『相生の色もかはらぬ老松の齢や君が命なるらん 謙澄』

『松が枝もきみのよはいを慶びててらしはいでて色まさるらむ 生子』

末松謙澄顕彰会

棚田看山